中一国語
古文導入　歴史的仮名遣い

講師：羽場 雅希

◆今日の授業で学ぶこと

・歴史的仮名遣(づか)い

◆ 歴史的仮名遣い

平安時代の仮名遣いがもとになっているもの。読み方が現代とは異なる。

【歴史的仮名遣いの読み方】

① 「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」

（例）まゐる→まいる
植ゑて→植えて
をんな→おんな

② 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」

（例）思はず→思わず　思ひて→思いて
思ふ→思う　思へば→思えば
にほひ→におい
ほのかに→ほのかに

③「ぢ・づ」は「じ・ず」

（例）もみぢ→もみじ
めづらし→めずらし

④「くわ・ぐわ」は「か・が」

（例）くわし→かし〔＝菓子（か）〕
ぐわん→がん〔＝願〕

⑤「む」は「ん」

（例）来む→来ん
ありけむ→ありけん

⑥ 二重母音をのばす―音で判断する。

ローマ字に直してみる。

・au・afu（アウ・アフ）→ô（オー）

（例）やうやう→ようよう

あふぎ→おうぎ〔＝扇（おうぎ）〕

・iu・ifu（イウ・イフ）→yû（ユー）

（例）いうげん→ゆうげん

きふなり→きゅうなり〔＝急なり〕

・eu・efu（エウ・エフ）→yô（ヨー）

（例）けふ→きょう

てふてふ→ちょうちょう

【第一問】

(1)～(5)の傍線部を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

(1) 先生からは、いとめでたきかをりがする。
＊めでたき…魅力的な、すばらしい

(2) 先生は、困ったことがあってもゑみを絶やさない。

(3) 先生は、「古文の世界を楽しんでもらいたい。」と思ふ。

(4) 先生は、「和歌を詠んで願いが叶ったらおもしろいだろう？」と生徒に問ひかける。

(5) 先生が、「けふは、講師全員で歌を詠みましょう！」と言った。

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【第二問】

次の傍線部の語をそれぞれ現代仮名遣いに直して、全てひらがなで書きなさい。ただし、直す必要のない語には×を書きなさい。

春はあけぼの。やうやう(1)白くなりゆく山際、少し明かりて、紫(むらさき)だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇(やみ)もなほ(2)、蛍(ほたる)の多く飛びちがひたる(3)。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光て行くもをかし(4)。雨など降るもをかし(5)。

〈『枕草子(まくらのそうし)』〉

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)